

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

学校名	札幌情報未来専門学校
設置者名	学校法人桑園学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	IT システムエンジニア学科	夜・通信	126単位	9単位時間	
	インフォメーションテクノロジー学科	夜・通信	77単位	6単位時間	
(備考)					

様式第 2 号の 2 - ① 【(2)-①学外者である理事の複数配置】

1. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	I T 企業 産業・流通システム本部 副本部長	平成 28. 6. 7 ～ 令和 2. 6. 6	「カリキュラム」及 び「人材育成」に関 するアドバイス
非常勤	農場経営 地方議会議員	平成 23. 6. 7 ～ 令和 2. 6. 6	「経営」及び「組織 経営」に関するアド バイス
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法 や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画(シラバス)の作成過程 科目ごとの授業目標を設定し、目標達成のために何を教えるべきか、どの期で教えるべきか否かなどを実務経験のある教員を中心に現場で必要とされるスキルや知識などについて検討します。2 期あるいは 3 期にまたがる継続科目は、期ごとの授業目標および科目終了時の到達目標を決定します。 また、各科目は半期毎の授業終了後に見直しをかけ、PDCA サイクルを取り入れ、より実践的かつ社会で必要とする知識やスキルを教えることに取り組んでいます。 ・ 授業計画書の作成・公表時期 授業計画は毎年 11 月頃から準備をはじめ、2 月上旬完成を目指し、カリキュラム検討委員会で決定していきます。 ・ 授業の方法(講義、演習、実習) 授業方法は、講義、実習、演習の形態で実施される ・ 授業の内容(授業科目の概要) 授業計画書(シラバス)に掲載されており、計画の通り実施している。各科目の授業概要は開示請求があれば本校にて閲覧できます。(2020 年 3 月に本校 Web 上で公開) <p>年間の授業の計画(授業回数とスケジュール) 各科目の授業計画(シラバス)に掲載</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

科目によっては継続性を重視する科目がある。例えば、科目Aを単位習得していないと科目Bを履修できないなどの履修条件を設定している。成績評価においては上記の「成績評価の方法・基準」に基づき厳格に実施する。また、評価基準に対しては最初の授業内でも評価方法及び評価基準を学生に伝えるとともに、資料を用意し周知を図っている。

3. 成績評価における客観的な指標としてGPAにて成績の分布状況の把握を実施している

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPAに基づく客観的な指標を用いて各学生が所属学科の学年内でどの位置にいるか把握できるようにする。

その際、GPAの算出方法をサンプルで示し理解を求める。各個人のGPAは「成績の分布を示す資料」で本人の位置を示すとともに、今後の学習指導に役立つよう個人面談にて伝える。

・評価方法は5段階「S」「A」「B」「C」「D」により評価を行う。「C」以上の評価が科目の合格点となり単位認定され、D評価は単位認定されず、必修科目の場合は翌年再履修となる。

評価方法は、単位認定試験結果、演習課題評価と提出状況、授業態度、出席点など科目担当講師が複数の評価方法を組み合わせて決定する。

4. 卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校で学ぶことでIT(情報技術)の基本知識、プログラミングスキル、システム開発スキル、Web系プログラミング、コミュニケーションスキルなどの幅広い広い知識と高い専門技術を身に付けた者、または将来、その知識・技術を身につける可能性が高いと思われる者に卒業認定を行う。

上記認定を受けた者がその知識を身に付けることで情報系企業のプログラマ、システムエンジニアなどの職種で就職することが可能となる。

また、ITシステムエンジニア学科の卒業基準は、各学年で用意されている必修科目を単位認定されていることと、一般科目、専門科目を合わせて150単位以上かつ授業時数2,700時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。

一方、インフォメーションテクノロジー学科の卒業基準は、各学年で用意されている必修科目を単位認定されていることと、一般科目、専門科目を合わせて100単位以上かつ授業時数1,800時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。

進級条件は、各学年で配当されている必修科目を履修し、その学年で単位習得しなければ進級できない。単位習得できなかった者は、翌年再履修しなければならない。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	札幌情報未来専門学校
設置者名	学校法人桑園学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	Web 公開
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	IT システム エンジニア学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,700 単位時間/ 150 単位	870 単位 時間/ 50 単位	2,310 単 位時間 /128 単位	330 単位 時間/ 17 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,510 単位時間/195 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		18 人	0 人	3 人	1 人	4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の方法（講義、演習、実習） 授業方法は、講義、実習、演習の形態で実施される ・ 授業の内容（授業科目の概要） 授業計画書（シラバス）に掲載されており、計画の通り実施している。各科目の授業概要は開示請求があれば本校にて閲覧できます。（2020年3月に本校 Web 上で公開） ・ 年間の授業の計画（授業回数とスケジュール） 各科目の授業計画（シラバス）に掲載されており、計画の通り実施している。
成績評価の基準・方法
<p>（概要）評価方法は5段階「S」「A」「B」「C」「D」により評価を行う。「C」以上の評価が科目の合格点となり単位認定され、D評価は単位認定されず、必修科目の場合は翌年再履修となる。</p> <p>評価方法は、単位認定試験結果、演習課題評価と提出状況、授業態度、出席点など科目担当講師が複数の評価方法を組み合わせて決定する。</p>

卒業・進級の認定基準
(概要) IT システムエンジニア学科の卒業基準は、各学年で用意されている必修科目を単位認定されていることと、一般科目、専門科目を合わせて 150 単位以上かつ授業時数 2,700 時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。 進級条件は、各学年で配当されている必修科目を履修し、その学年で単位習得しなければ進級できない。単位習得できなかった者は、翌年再履修しなければならない。
学修支援等
(概要) 前期・後期の科目履修指導および履修相談、放課後の補講、長期休み期間の補講を実施、また、資格試験対策も同様に実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)
(主な就職、業界等) IT 企業 (プログラマ、システムエンジニア、ネットワークエンジニアなど)
(就職指導内容) 一般常識、履歴作成指導 (志望動機、自己PR、得意科目など)、面接練習など
(主な学修成果 (資格・検定等)) 国家試験 (基本情報技術者試験など)、民間資格 (サーティファイ検定: Word、Excel、Access、PowerPoint、Web クリエイタ、Java 言語検定、C 言語検定など)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	1人	8.3%
(中途退学の主な理由) 母親が怪我で仕事ができず、学生本人が家計を支えるためにやむを得ず退学することになった。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 生活指導を重視し、遅刻・欠席が増えた学生に対する面接及び指導、父母への連絡などを行い学校と家庭が連携して指導を行っている。		

②学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	インフォメーション テクノロジー学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800 単位時間/ 100 単位	690 単位 時間/ 41 単位	1,830 単 位時間 /91 単位	210 単位 時間/ 13 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,730 単位時間/145 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		10 人	0 人	3 人	1 人	4 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の方法(講義、演習、実習) 授業方法は、講義、実習、演習の形態で実施される ・ 授業の内容(授業科目の概要) 授業計画書(シラバス)に掲載されており、計画の通り実施している。各科目の授業概要は開示請求があれば本校にて閲覧できます。(2020年3月までに本校 Web 上で公開) ・ 年間の授業の計画(授業回数とスケジュール) 各科目の授業計画(シラバス)に掲載されており、計画の通り実施している。
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 評価方法は5段階「S」「A」「B」「C」「D」により評価を行う。「C」以上の評価が科目の合格点となり単位認定され、D評価は単位認定されず、必修科目の場合は翌年再履修となる。</p> <p>評価方法は、単位認定試験結果、演習課題評価と提出状況、授業態度、出席点など科目担当講師が複数の評価方法を組み合わせて決定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>各学年で用意されている必修科目を単位認定されていることと、一般科目、専門科目を合わせて100単位以上かつ授業時数1,800時間以上をクリアしなければ卒業は認定されない。</p> <p>進級条件は、各学年で配当されている必修科目を履修し、その学年で単位習得しなければ進級できない。単位習得できなかった者は、翌年再履修しなければならない。</p>
学修支援等
<p>(概要) 前期・後期の科目履修指導および履修相談、放課後の補講、長期休み期間の補講を実施、また、資格試験対策も同様に実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）
（主な就職、業界等） I T企業（プログラマ、システムエンジニア、Web クリエイタなど）
（就職指導内容） 一般常識、履歴作成指導（志望動機、自己PR、得意科目など）、面接練習など
（主な学修成果（資格・検定等）） 国家試験（基本情報技術者試験など）、民間資格（サーティファイ検定：Word、Excel、Access、PowerPoint、Web クリエイタ、Java 言語検定、C 言語検定など）
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0.0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 生活指導を重視し、遅刻・欠席が増えた学生に対する面接及び指導、父母への連絡などを行い学校と家庭が連携して出席を励行する。		

③学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載 事項）
I Tシステムエンジニア学科	250,000 円	520,000 円	428,000 円	
インフォメーションテクノロジー学科	250,000 円	520,000 円	428,000 円	
修学支援（任意記載事項）				
母子・父子世帯支援、 再進学支援、 家族支援 札幌情報未来専門学校奨学生、 指定校推薦入学制度				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 刊行誌「札幌情報未来専門学校 自己評価結果 2018」 開示請求があれば本校にて閲覧可能		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
(1) 本校の教育活動、学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その結果に基づき改善を図り、社会に必要な人材を育て送り出すことを目的としている。 (2) 実施は年に一度、3月に委員会を実施する。 (3) 委員会は、3名の外部委員と内部委員2名の計5名で構成される。 (4) 学校関係者評価委員には、4月から2月まで実施した業務について教職員による自己点検結果を委員会前に事前配布し、委員会にて意見を頂く。 (5) 評価頂いた結果については優先順位を決め、学校長を責任者としてすぐに対応できることは早期に実施する。時間を要する事柄については内部委員で検討し段階的に実施する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人監事	2年	企業等委員
企業関係者	2年	企業等委員
非常勤講師	2年	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 開示請求があれば刊行誌「札幌情報未来専門学校 学校関係者評価結果 2018」を本校にて閲覧可能		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 教育活動等の状況は公表しておりません
